広報
さめがわ

1970
12月号
No. 205
編集兼発行
鮫川村総務課
塙町・佐藤印刷所



健康でたくましいこの後継者たち

毎年11月の文化祭には、恒例の‘‘お嫁さんに感謝する会,,と‘‘お母さんをたたえる会,,が開かれます。この行事は鮫川村独自のもので全国でも例がないということです。

今年の‘‘お嫁さんに感謝する会,,では、健康優良児を生んだ若いお母さんと、すくすくと丈夫に育つている16人のお子さんが村長から表彰されました。

優良健康児被表彰者名

子の氏名	母の氏名	子の氏名	母の氏名
大楽　尚弘	大楽　憲子	佐藤　勝枝	佐藤　ミツ
松本　　健	松本　弘子	高木真知子	高木寿美子
高杉　宏幸	高杉タカ子	長久保春美	長久保トシ子
湯座　　泉	湯座　光子	松本　和子	松本　竹子
松本　正和	松本　初江		
水野　哲夫	水野　洋子		
蛭田　忠雄	蛭田ノリ子		
大谷　俊一	大谷　　慶		
添田美和子	添田サチエ		
青戸　寿之	青戸ケイ子		
松崎　安典	松崎　勝子		
鷲野谷博則	鷲野谷清子		

☆ 12月のこよみ ☆

1日　交通事故ゼロの日
4日　人権週間
8日　針供養
15日　年賀郵便物取扱い
25日　クリスマス
28日　官庁御用納め
31日　年越、大はらい

◉第3日曜日は「家庭の日」です

今月の人口

人口　6,685（−20）
男　3,391（−8）
女　3,294（−12）
世帯　1,216（0）

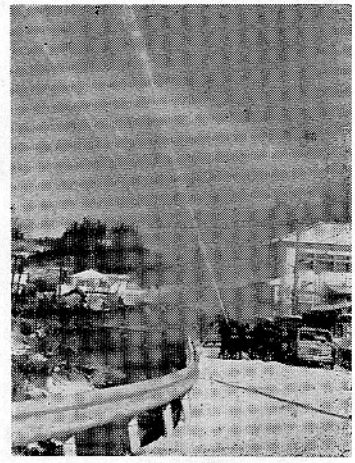
火の用心

いよいよ火災の発生しやすい季節です。火の元には十分注意して下さい。

石油ストーブ・コタツの火や子供の火あそびが火災の一番多い原因となつています。

一番こわい火事、大切な財産を守るためにも常に火の用心につとめて下さい。

出して消すより
出さない用心!!



ちよつとまて
消したはずだがもう一度!!

人事

次のとおり職員の異動がありました。

（十一月十四日付）

主事補　鈴木八重子（産業福祉課）
総合農政対策室へ

主事補　鈴木順子　（総務課）
産業福祉課へ

（八月十九日付）

運転手　関根義栄（産業福祉課）
給食センターへ

運転手　舟木利次（診療所）
産業福祉課へ

用務員　藤田正美（総務課）
運転手、診療所勤務を兼ねる。

運転手　高木市郎（教育委員会）
大型スクールバス運転業務

◎人権擁護委員に大楽勝男氏長らく人権擁護委員として勤めていた白坂勝弥氏の後任として、法務大臣から十一月一日付で大楽氏が人権擁護委員に委嘱されました。

おめでた

十月

草木　芳賀　雄一　父芳雄
関ノ上　中川西　正　〃修身

十一月

前沼　岡部清代枝　父宏
西野沢　芳賀　敦子　〃忠雄
浅屋敷　鈴木トモ子　〃正秋
官代　前田　寿次　〃孝徳

おくやみ

中	鈴木	タケ	77才	世帯主 清助
中	鈴木	カツ	78才	本人
木戸沢	鈴木	チカ	45才	秋男

村長　石田卯子八

動き出した広域市町村圏

（44）

自治省がうち出している広域市町村圏は、通説でいう社会生活圏の第三次生活圏をいうので、人口が概ね一〇万人ないし二〇万人、日常社会生活のほぼ完結的な需要をみたし得る圏域を指しております。

東白川地方町村は、人口規模が四万六千程度に過ぎないし、中心核の都市的な施設や機能も乏しいので、自治省のいう広域市町村圏を単独で構成することは先づ困難であります。

一方建設省の地方生活圏構想では、西白河地方と東白川地方をひとつにして道路計画などを考えている関係もあり、広域市町村圏もこの方向でいろいろな角度から検討されてきました。

われわれの日常生活は、交通機関の発達、特にモータリゼーションの普及などで、著しく行動半径が広くなり、町村の垣根を越えて拡大されて行きます。

また経済の発展に伴つて行政需要がますます広く且つ高度になり小さな町村の単独の力ではどうしてもやれないような事業が、現実に必要になつてきたのであります

広域市町村圏は、このような課題を、国の援助をうけながら圏域内市町村の共同の力で処理して行こうとするもので、心配されるような大合併の前提となるものではないと説明されています。

西白河地方では昨年からこの計画を進めており、白河地方広域市町村圏整備組合が発足しております。東白川地方町村は、この一部事務組合の区域を拡大して、東白川地方を含めた圏域とするという建前で検討が進められてきたのであります。

既ちこの地域の広域市町村圏は西白河郡の一市一町六村と、東白川郡の古殿町を除く三町一村を合せ、一市四町七村で構成することになりましよう。

行政の機構は、白河地方広域市町村圏整備組合ということになり地方自治法上は一部事務組合で、組合議会が議決機関となり、組合管理者が執行機関となります。

このことは、十二月中それぞれの市町村議会で議決され、組合議会が規約改正を議決して初めて成立することになります。

この一部事務組合が、共同処理する事業として、今の段階で準備検討されている事項には次のような内容があります。

青少年の健全育成施設
道路補修センター等
常備消防
救急施設
福祉センター

等数多いのでありますが、もとより財源の裏付がなければならず地方交付税の増額を含む国の財政援助を期待するものの、自主財源は各市町村の負担に待つのでありますから、自ら限度があることはもちろんであります。

いづれまだ決定されたものではないが、この地域の広域市町村圏が胎動の時期に入つたとはいい得るわけであります。

議会だより

県単林道、壇の岡線開設
副議長に岡部伝氏選任

第十一回議会臨時会は十一月十九日に招集され、十五名の議員が出席（欠員二、欠席一名）して、会期を一日間とし次の二議案が審議され、いずれも原案どおり可決されました。

◉議案第四十六号　昭和四十五年度鮫川村一般会計補正予算第（八号）

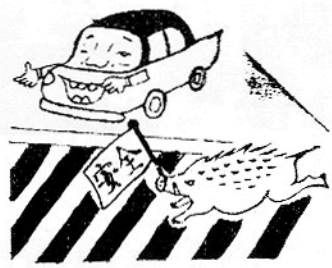
県支出金百五十五万二千円、村債九十万円増と県単林道受益者分担金二十五万六千円減の財源で、西野駐在所工事費十五万円、簡易水道施設設計委託料等に百六万九千円、へき地農山漁村特別対策事業補助金として世々麦協業養蚕組合に百三十七万五千円、県単林道工事費（壇の岡）に三百四十三万六千円等が補正増となり、不足分は道路新設改良費減と予備費より充当されました。

◉議案第四十七号　土地取得について

林道壇の岡線用地として七名の方より、新宿、広畑地内の田畑、山林一二、四六五㎡を村が取得したものについて議決されました。

◉選挙第二号鮫川村議会副議長選挙について

先に保留になっていた副議長選挙は議長の指名推せんにより岡部伝氏が選出されました。



お互の自覚で交通事故は防げます。

年末年始　交通事故特別警戒

飲酒運転が大きな交通事故に結びついている現況にかんがみ、飲酒運転の悪質、危険性を運転者に周知させるとともに、広く家庭、社会環境からそれぞれ自主的、積極的な努力によって飲酒運転およびこれらにもとずく交通事故を防止しようとするものです。

◉実施期間
四十五年十二月十五日から
四十六年一月十四日まで

◉スローガン
酒のみ運転をなくそう
飲むなら乗るな　飲んだら乗るな

村税完納運動

未納の村税は、今すぐ完納しましょう。
12月1日～12月25日

未納になっている各種村税を自主的に完納していただく村税完納運動を展開しております。

十二月は農産物等の代金の入る時期でもあり、何かとご都合もあることと思いますが、未納になっている方はこの際是非完納されるよう御協力をお願いいたします。

なお今月は、村県民税等三期分及び国民健康保険税第五期分の最終納期になっております。

納期内に完納し「十四ヶ年継続全村完全納税」の金字塔をうちたてるよう納税者皆様の御理解と御協力を重ねてお願いいたします。

感想文募集

成人になって感じたことを四百字詰原稿用紙三枚以内にまとめて四十六年一月十日までに公民館事務局に届けて下さい。

応募者全員に記念品を差し上げます。

なお成人式当日に発表していただきます。




「お母さんをたたえる会」の慰安芸能に、日頃のご苦労を忘れるお母さんたちのにこやかな表情。


お仕事に育児に毎日が忙しいお嫁さんたち。今年の「お嫁さんに感謝する会」も多数の参会者でたのしんでいただきました。


優良健康児の表彰をうけ鮫川中体育館前で記念撮影する若いママさん元気一杯の赤ちゃんたち。

よろこびの叙勲祝賀会
白坂勝弥翁の功績をたたえる

勲六等単光旭日章に輝く白坂勝弥さんの光栄をお祝する叙勲祝賀会が十二月五日鮫川村公民館で盛大に開かれました。

この日村外からは管内町村長、民生委員協議会長、県側から白河福祉事務所長等が臨席し、村内有志百数十名とともに心から白坂さんの名誉をたたえ、よろこびを分ち合いました。

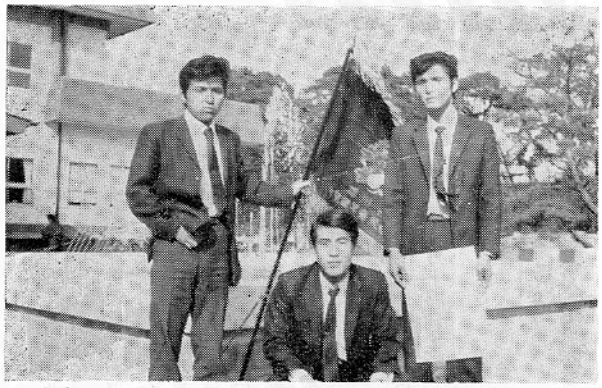
定刻一〇時開会、石田村長藤田議長のあいさつに次いで、村長から記念の大楯が贈られ、町村代表の塙町長、福祉事務所長、教育委員長、農業委員会長の祝辞があり白坂さんの謝辞がありました。

次いで棚倉町議会議長藤田延生義氏の発声で万歳を三唱し、簡素な祝宴の後散会しました。

☆　☆



感激の謝辞を述べる白坂勝弥翁





共同募金に感謝

十月の赤い羽根共同募金は、村民の皆さんのご理解あるご協力により一五万四千円の目標額に対し一五万四四七〇円と目標額を四七〇円超えて運動を終ることができました。

なお同時に行いました本管内で只一つの養護施設である堀川愛生園の後援会の募金も目標額二万五千円を一〇〇%達成しました。

これらの募金はそれぞれの福祉施設等に配分されます。

ご協力に深く感謝します。

○各区の募金内訳
（赤い羽根、堀川愛生園募金の合計額）

大字名	目標額	実績額
赤坂西野	28,030	28,500
西山	25,140	25,140
赤坂中野	35,450	35,450
東石	37,780	37,780
富田	16,550	16,550
渡瀬	25,340	25,340
青生野	10,710	10,710
計	179,000	179,470

（おねがい）

十二月一日から歳末たすけあい募金が始りました。

これは長い間病院等に入院している方々、体が弱く福祉施設に入所している子供達、又生活に困っている世帯など恵まれない方々に愛の手をさしのべ、皆んなで明るく楽しいお正月を迎えようとするものです。

ご協力をお願いします。

郡内蚕振競技大会で優勝

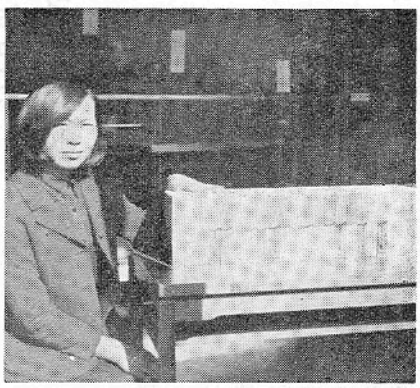
11月７日棚倉町中央公民館にて行れた。東白川地方蚕業振興大会並びに蚕業振興競技大会で、鮫川村蚕業中堅青年研究会（会員34名）は蚕業中堅青年活動競技の部で、２年連続２回目の優勝を飾りました。また知事賞、古市県議賞郡繭増推協会長賞、郡養連会長賞も合せて受賞し、鮫川村蚕業青年の名声を高めました。



十年目を迎える 国民年金
――鮫川村に感謝状――

来年四月一日で国民年金制度も発足以来十年目を迎え、いよいよ高令加入者に年金が支給されます。この年金制度も発足当時は趣旨の徹底に種々苦労がありましたが現在では国民皆年金の制度が理解され、保険料の納入も全国的に順調です。

このたび鮫川村の年金事務取扱いが特に優秀であるため社会保険庁長官より感謝状が授与されました、又併せて東石区保険料納入組合もその成績が優秀であるとして表彰されました。



本村出身で日本競馬施設ＫＫ総務部長を勤めている東京の本郷喜三郎さんから、筑摩書房刊の「現代世界ノンフイクション」全集24巻が鮫川村公民館に寄贈されました

阿久津運送社長さんから寄付

西山折戸出身の阿久津長蔵さんは西山小学校卒業後上京し、苦心努力の結果阿久津運送株式会社を独力で創立した立志伝中の人物ですが、惜しくも今春58才の壮年で亡くなられました。

現在は長男の紀行さんが母親のミカさんや弟さんたちと力を合せてこの会社を経営されていますがトラツク8t車3台、6t車2台4t車６台で都内初め会津や二本松からの運送事業を行つておられます。

先ほど郷里の実家を通して村の基本財産にと金１万円を贈られ、また図書（世界文化シリーズ24冊）を寄贈されました。

鮫川史(25)

石神村の殿山

国島義広

旧幕時代には山田村と石神村で今は鮫川村と棚倉町に界して居る通称に殿山と称し、標高六百二十八メートル余の小高い峯がある。此の山の由来する処、徳川家康の慶長八年十月三日立花左近将監宗茂が筑後より就封し棚倉二万五千石の領主となる。時に御用林（藩有林）として同年十一月廿日石神村に十二町歩の藩有林（御林）を造り此の山に庶民の立入る事を堅く禁じた。其の後元和八年正月十日丹羽五郎左エ門長重が常陸石渡より移封、五万石を領す。寛永二年六月一日築城を命ぜられし時、百姓を使役し此の地より御用材を採ると藩記に見ゆ。

寛永四年二月一日丹羽氏白河に十万石にて転封、後に内藤豊前守信照が摂津田中より就封五万石を領す。此の時に北山本村に十町歩、富岡村に十町歩（現在の棚倉町）の御用林を御法度の峯（八斗上）とも云い。北山本村の用林を御楽栄山（御来山）と云つた。

石神村の藩有林を啓称して殿山と云つた。又は御林とも云う。宝永二年四月一日駿州田中より太田備中守資直就封してより、藩の常例として歴代の藩主が自ら鷹狩をしたので鷹御猟山と呼ぶに到る。明治維新となり此の山が国有地に接収されたが、後に其の一部を民間に払下げて鮫川の村有林とした。頂上に出羽三山より月山を分霊祭礼建碑してより月山と呼ぶに到る昭和二十四年九月十八日の村議会で阿久津村長当時、新制中学校舎新築に当り村財産を処分し之に充てた。時に地元の吉田稔氏に譲渡（当時国島議長）し現在に到る民有地である。

眺望絶佳四季眺めの絶いず。去る昭和四十一年当村出身の鈴木春詩画伯か鮫川百景を描くに当り、三川母体山として画題に銘す。これ東に流れて鮫川となり、西に落ちれば久慈川に入り、北に下れば阿武隈川に注ぐの発源で、故に三つの川の源流をなす意で母体山の画題むべなるかなと云ふべし。

此の殿山にまつわる秘談哀話として一つの話が今に残されて居る時は文久二年八月廿一日と云ふから、島津久光公の武州生麦村に於てイギリス人五人を斬つた（生麦事件）日に当る。

石神村に四郎兵工と与市郎と云ふ常に犬猿の間柄の百姓がいた。四郎兵工が此の殿山に入り、雑木一本を盗伐したのを与市郎に見つかつたのが運の尽き、早速棚倉藩松平周防守康英の郡奉行所に密告され、取調べの結果、一枝を伐れば一首打つの厳しい法度により、斬首の仕置にされた。其の時当石神村の台宝院の寺僧、宥信法師が命乞をすれば赦免されたのに臆病者の寺僧故、其の場に近寄らず小枝の坂に佇つていた時に既に打首となつて仕舞つたと云ふ。此の時百姓四郎兵工の辞世の歌として左の一首が今に残つている。

人の首打てば再び生きはせじ
伐りし木の芽は春に萠えども

（北条佐四郎氏談）

年末年始の防犯に協力を!!

出るとき、寝るとき火の元と戸締りは完全に!!

◉重点目標
1、盗難予防と検挙
2、暴力犯罪の予防
3、少年の非行防止

年の瀬を無事に過ごし、希望にみちた新年を迎えられるよう年末年始の防犯にご協力願います。

棚倉警察署
鮫川村防犯協会

文芸

盛会だった一周年記念
俳句◇短歌大会

村文化祭の一行事として、十一月二十一日鮫川俳句、短歌会主催により、各々一周年を記念して俳句、短歌大会を村公民館で盛大に行われた。

俳句大会では互選最高点者より次の方々が受賞、福原十王先生特選の天、地、人位にはそれぞれ先生揮毫の色紙が贈られた。

村長賞　金沢良二
教育長賞　西島三叉水
公民館長賞　吉田羊羊

又短歌大会では次の方々が受賞し、何れも石田村長から直接賞品が贈られました。

村長賞　関根一好
教育長賞　円井モト
公民館長賞　蛭田博子

終つて村長を囲んで各人の稚号の由来や、文芸の想出話など和やかな中に大会を終了した。

俳句

福原十王先生選

天、ひょうひょうと星磨ぐ風の　五十鈴
地、十二月　霜除けをする藁束に蜂落ちる　五黄
人、林より拓舎黄ばみて秋深し　三叉水

佳作

曾孫の今日七五三我れ老いり　みのる
木枯と出稼ぎやけの父の顔　貞子
つむじ風落葉雲井に影うせて　兼光
矢祭の谿紅に燃えたのし　辰弥
さみしさは心をとおす秋の空　リイ
さんど豆双葉となりぬ霜の朝　シゲ
菊枯れて花虻やどるところなし　モト
柿もいで景色にはかにやつれたる　ミキ子
母の忌や甘柿赤く栗もそえ　蚯切
菊の香や花瓶の水をそゝぎたす　句仁志
木枯しの底に沈もる灯の四五戸　五十鈴
普段着の妻が見送る七五三　久月
紛雪を透して空に鳶の笛　五黄
畑打てば冬眠の蛙ふくらんで　弘嶽
生き甲斐の話に更けて秋の月　吟月
つかれゐし妻柿むけば居ねむりぬ　家満寿
銀杏散つて頑具のごとき市電ゆく　良二
み仏と今朝新米を味はへり　羊羊

短歌



出稼の手荷物ふれて並ぶ子のほゝえむ顔に胸こく増して　モト
ひとりとのもらいし菊を鉢に上げ咲き初む今朝の心うるほう　求
テレビ見て心うたれて笑ふ声いく度びとなく笑ふ声きく　倉吉
不便なる畑荒らして杉植うる減反記念孫の代まで　長逸
静けさを求めて一人旅にきて山の温泉に通り雨きく　市作
貴女のみに語らんと云ふこの言葉あはれ女の性は哀しき　博子
選米機にかけられし米はひとすじの光りの川となりて流れる　ミキ子
妻の忌は我が子と話し塩おはぎつくりて供ふ秋雨の日に　七星
鮫川という地も知らず嫁ぎきて早や三年の秋も過ぎゆく　京子
四度の旅四季それぞれの岩の肌秋こそあかぬ袋田の滝　凡斉
酒のめばのむ程おろかになりてゆく友の手のふるい悲しみて見つ一好
滝見台向へてなだる原始林木立ちを透きて細く滝見ゆ　忠男

祝福される新しい社会人

昭和46年1月15日鮫川村公民館で行なう鮫川村成人式の招待者（新成人者―昭和25年4月2日～昭和26年4月1日までの間に生れた者―）については11月10日現在の住民基本台帳によつて、下記のとおり名簿を調製しました。

ついては名簿以外に該当者がある場合または当村の成人式に出席したい方は、昭和45年12月25日までに鮫川村公民館（電話42番）に申し出てください。

赤坂西野区

須藤一、須藤ヨシ子、白坂幸子、藤田とし子、須藤みき、石井重也、北条泰男、矢吹俊二、高坂和子、鈴木新市、鈴木秀家、吉田良一、藤元ミチ子、舟木秀一、舟木久、薄葉三代子、増子三義、斉藤義男、西野信美北条利一、星孝重

西山区

斉藤芳信、我妻信治、我妻邦治、水野アキ子、関根正一関根勝久、関根政信、関根義明、阿久津トシ子、根本チヨ子、三瓶美佐子、根本一郎、関根安子、関根保吉関根芳包、関根マチ子、大竹サチ子、関根貢、国井勝広関根美代子、関根邦子、関根ふさ子、大竹君江、阿久津茂

赤坂中野区　白岩喜代子、鈴木民子、大池澄江、中川西功、湯座好郎、湯座悦子、緑川ひろ子、緑川シヅエ、小島貫二、矢吹よう子、芳賀カツ、金沢アサ子、高木晴夫、鈴木みい子、湯座浪子、高木千恵子、矢吹初代、緑川文江金沢満、鈴木敏、本橋清、湯座恵子

赤坂東野・石井草区　有賀志津子、蛭田美未、白井貞子、吉田理恵子、芳賀フミ子、窪木一、蛭田和子、遠藤茂、遠藤豊子、鈴木和則、鈴木正孝、柿沼源義、三瓶光板、三瓶正志、森健一、田子政一、玉木幸美、渡辺幸一、中川西次枝、中川西すみ子、吉田より子、吉田みつ子、水野秀子、関和子、斉藤二美子

富田区　鷲野谷重一、坂本義男、白井博明、国島伸子、松木謙一、須藤光夫、松本八千代、我妻一兄、松本トシ子、小山田一成、大平美代子、蛭田タツ子、青戸サヨ子、緑川和夫、鈴木孝一

渡瀬区　国井俊治、山形多美子、芳賀登、菊地ユキ子、蛭田正美、蛭田一雄、荒川逸子、藤田洋子、芳賀五郎野内和雄、菊地吉雄、加藤信、遠藤ミエ子

青生野区　矢吹美津恵、山形三男、本多一郎、森田保男、大竹フヂエ、白石キヌ子、森田正信